

# ほかにもある福岡の名建築

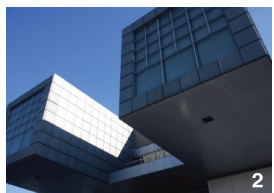
福岡にはまだまだ、有名建築家による素晴らしい建築がたくさんある。ぜひ「名品」を訪ねてほしい。



端正で力強い空間そのものがアート  
【 北九州市立美術館 】

**磯** 崎新氏設計による。本館は1974年竣工。40年近い歳月が経過しているが、巨大な直方体を2本並べて上に置いたような外観は、今なお強烈な印象を残す。エントランスは、直方体が内部を貫いているかのように外壁と同じタイルの壁が続き、シンメトリーを強調する。石の質感を生かした内部には自然光を取り入れ、端正ながら無機質な冷たさを感じさせない。1986年に増設されたアネックス棟には、回廊が水盤を囲む「アトリウム」と呼ばれる空間がある。展示室から扉を開け外へ出ると、この円柱と水盤が正面に現れ、目に清々しい。

美術館には近代から現代へ、展示の手法にともなう構造の変遷がある。決められた順を追って見せる構造から、入館者が自由に出入りし、ときにくつろぐ空間へ。同館はその流れの過渡期にあって様々な試みが見受けられる。



1.本館をつなぐ通路とアネックス棟展示室の間に設けられた「アトリウム」 2.二つの直方体が突き出た先には海と北九州の工場地帯が広がる

福岡県北九州市戸畑区西鞘ヶ谷町21-1  
TEL 093-882-7777  
開館時間／9:30～17:30(入館～17:00)  
年末年始、月曜休(祝日の場合は翌日休)



人工島の緑の丘陵は「成長する建築」  
【 アイランドシティ中央公園中核施設・ぐりんぐりん 】

**ア** イランドシティの住宅エリアに設けられた総合公園の中核施設「ぐりんぐりん」は、干拓地という平野でただ一つのなだらかな丘陵のようだ。継ぎ目のない1枚のコンクリート面が、らせん状にうねり、地面から立ち上って屋根を形成する。屋上に造られた遊歩道の両脇には、季節の花々が咲く。屋根一面を覆う植物は成長を続け、人工物を飲み込み、建築は自然と一体化していく。建物は三つのスペースに分かれた体験型の緑の学習施設。中央ブロックには大型の熱帯植物が茂り、建物内で飼育された蝶が木々の間を飛び回る。

設計は伊東豊雄氏、2005年竣工。コンピューターで構造解析し、コンクリートの型枠の図面を効率よく作る現代の技術を駆使して造られた。この自由な曲面を建築物として保つために描かれた施工図は数万枚に及ぶという。



1.デッキを歩くといつの間にか緑に覆われた屋根に到達する 2.内部には熱帯の植物が茂る。見学は自由(有料、大人100円)

福岡市東区香椎照葉4  
TEL 092-661-5980  
開館時間／9:00～17:00  
12/29～1/3、火曜休(祝日の場合は翌日休)



新しい方向性「リファイニング建築」  
【 八女市多世代交流館・共生の森 】

**大** 分県出身・首都大学東京教授の建築家・青木茂氏が提唱する「リファイニング建築」は、一般のリフォームやリノベーションと異なる。弱体化した構造躯体の耐震補強を施し、老朽化した建物の80%を再利用しながらも、建物の用途変更や意匠、空間の構成を劇的に転換する。これを繰り返すことで建築の長寿命化を図る。新たな再生手法だ。コストは建て替えの60～70%に抑えられる。

2001年竣工のリファイニング建築「共生の森」は築30年以上経過した躯体がベースとは思えない、全く現代的な姿だ。波打つような白いカーテンウォールは、伝統工芸が今も息づく八女市の地域性を尊重し「屏風」に見立てたもの。内装は一転、八女杉材を明るい光が照らす、親しみやすい空間となっている。かつての高齢者福祉センターは、世代間を超えたふれあいの場として生まれ変わった。



1.既存の躯体を覆うカーテンウォールはコンクリート壁を風雨から守る役割も 2.リファイニング前の建物。この躯体の7割が再利用されている

福岡県八女市高塚191  
TEL 0943-22-2257  
開館時間／9:00～17:00  
年末年始、日曜休

取材協力:ナガハマデザインスタジオ(福岡市中央区長浜)

板野純氏(エクスポジション代表)、川上隆之氏(ワタリ代表)、二人の建築家によるデザインユニット。戸建て住宅から商業施設、まちづくりなど様々なデザインプロジェクトを行っている。また、福岡にある優れた近現代建築を市民や来訪者に広く紹介しようと、福岡の企業、大学、行政の産学官の有志で組織されたMAT Fukuoka (Modern Architecture Tour in fukuoka) のコアメンバーでもある。